

板書力が
UPする！

探し物ドリル・上級編



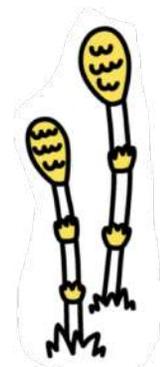
はじめに

板書が苦手な発達障害の子におすすめの 「探し物ドリル」ができました！

子どもの勉強嫌いの原因には様々なケースがあります。その中でも多いのが「板書が苦手」「ノートが書けない」と言うつまずき。そこで今回は、板書が苦手な発達障害の子におすすめの「探し物ドリル」を紹介します。

【目次】

1. 勉強嫌いの原因は板書の苦手かも？
2. 発達障害の子どもがノートを書けない理由はコレ！
3. 板書が苦手な子におすすめの「探し物ドリル」とは？
4. トレーニングの効果を高める秘訣
 - ◆お母さんの対応でハードルを下げる
 - ◆見本をしっかり覚えさせる
 - ◆できたところにだけ注目する
 - ◆板書力を格段に伸ばす裏技



1. 勉強嫌いの原因は板書の苦手かも？

「うちの子、勉強嫌いで困っているのよね...」と悩むお母さんは多いですね。

発達障害グレーゾーンの子どもは苦手なことが多いため、

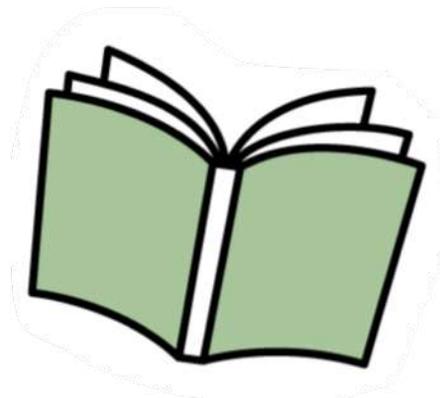
- ・ 集中力が続かない
- ・ 文字の形を覚えることができない
- ・ 読み飛ばしが多い

など、勉強のつまずき方には様々なケースがあります。

勉強嫌いな子どもへのサポート方法はこちらでお話ししています。

『勉強嫌いな発達障害の子どもに効く、サポートの極意とは？』 <https://desc-lab.com/45750/>

中でも最近増えているのが
「**板書が苦手**」「**ノートが書けない**」というタイプです。



実は板書が苦手だと

- ・ノートを書くのに精一杯で授業についていけない
- ・時間内に書けないことで自信を失う
- ・理解のない先生だと「やる気がない」と評価されてしまう

など、困りごとが大きくなりやすい傾向があります。

そのため、できるだけ早く適切なサポートをしてあげることが大切です。

板書が苦手な子どものサポート方法としては

- ・黒板が見やすいように席を前の方にしてもらおう
- ・プリントを用意してもらい、手元の見本を見ながら書く

などがありますよね。



ただし、これらはあくまでサポートです。

実は**サポートにプラスして適切なトレーニングを行うことで、「板書が苦手」「ノートが書けない」というつまづきを解消することができる**んです！

そこで今回は、板書が苦手な子どもにおすすめの「探し物ドリル」を紹介します。

2. 発達障害の子どもが ノートを書けない理由はコレ！

板書が苦手な発達障害の子どもによく見られるのは

- ・時間が足りなくて書けない
- ・黒板とノートを交互に見ているうちに、どこを書いているのか分からなくなる
- ・板書で精一杯で先生の話聞くことができない

などと言う様子です。

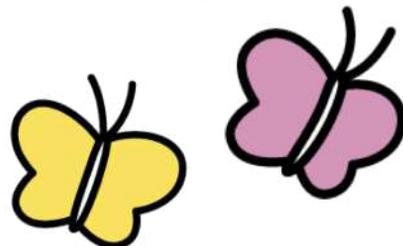
実はこれらの困りごとには

- ・不器用
- ・読み書きが苦手
- ・不注意傾向があるために、マルチタスクができない
- ・視線の移動が苦手

など様々な発達障害の特性が大きく関係しています。

中でも板書の苦手のカギとも言えるのが、
「ワーキングメモリの弱さ」です。

ワーキングメモリとは一時的に情報を記憶し、
その情報を使って作業をする働きのことです。



板書をするときには

黒板を見て、書いてあることを一時的に覚える

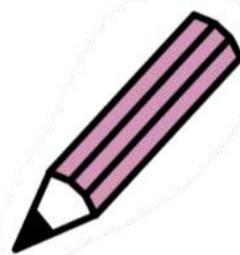


視線をノートに移して、記憶したことを書く



再び黒板に視線を戻して、新しい部分を覚える

という作業の繰り返しですよ。



ところが発達障害の子どもは
ワーキングメモリが弱いために

- ・ 単語や文をまとまりとして認識するのが苦手
- ・ 視線を動かした瞬間に、情報を忘れてしまう

などと、

記憶を保持し続けながらスムーズに板書することが困難
になってしまうのです。

さらに不注意傾向があるため、黒板からノートに視線を
動かすときに周囲に関心が向いてしまい、集中して板書
を写すことが難しい場合もあります。

つまり、発達障害の子どもの板書の苦手なアプローチ
するには、**ワーキングメモリを鍛えてあげることが大事**
なんです。

3. 板書が苦手な子におすすめの「探し物ドリル」とは？

そこでパステル総研では、板書が苦手な発達障害の子どもにおすすめしたい教材として「探し物ドリル」を開発しました。

こちらのドリルは、**見本を見ながらもしくは見本を覚えて、指定されたものを探すトレーニング**です。

ワーキングメモリが弱い子どもにとって、記憶力を鍛えるトレーニングは負荷が高く、嫌がる可能性もあります。

ですから今回は、**「子どもが楽しみながら取り組める」**ことをテーマに

- ・イラストではなく写真を使うことで子どもの興味を引きやすい
- ・ブロックや食べ物、文房具など身近な素材を使用
- ・不注意傾向がある子どもでも安心の、上下に問題を記載

などの工夫がされています。



さらに、見本が写真のものと言葉のものがあるのは

- ・写真→じっくり観察することで「見る力」を鍛える
- ・言葉→単語や文をまとまりとして覚える練習をする

と言う狙いがあります。

今回のドリルはプリントせずに、**パソコンやタブレット、スマホで取り組むのがおすすめ**です。

初級は**問題（見本）と課題（全体像）**が同じページに、
中級と上級は**問題と課題が別々のページ**に
記載されており、記載順に難易度が上がっています。

ただし、ブロックが好きな子、食べ物が好きな子など
子どもによって関心があるものは違いますので、
お子さんのやりたいところから取り組んでいただいて大丈夫ですよ。



4. トレーニングの効果をも高める秘訣

トレーニングの効果をも高めるためには

- ・ **楽しみながら取り組むこと**
- ・ **お母さんの対応で「できた！」という成功体験を積むこと**

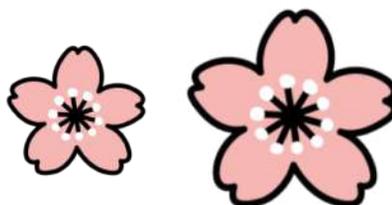
が大事です。

ですからまずは、**普段の親子のコミュニケーションをスムーズにすることが必須**です。

詳しくはこちらでお話ししています。

『おうちでの発達トレーニングの前に知ってほしい、発達障害の子どもを格段に伸ばす正しいトレーニングの方法とは～パステル総研、教材をリリースします！～』

<https://desc-lab.com/18952/>



ここでは板書が苦手な発達障害の子どもにおすすめの、ドリルの取り組み方を4つお伝えします。

◆お母さんの対応でハードルを下げる

1つ目は、**お母さんの対応でハードルをぐんと下げてあげる**ことです。

先ほどもお話ししたように、ワーキングメモリが弱い子どもは

- ・覚えること
- ・たくさんの情報の中から大事なものを探ること

に苦手意識を持っていることが多くあります。

ですから、お母さんの声かけで「ちょっとやってみようかな」と思わせることが大事なんです。

例えば

「これ、お母さんもなかなかできなかつたんだけどね...」
「これ難しいから、できたらすごいやつんだけど...」

などと一言付け加えてあげましょう。

また、2つ以上の見本を同時に覚えたり探するのが難しい場合もあると思います。

そんなときは「まずはこれを覚えようか」と**1つずつ取り組むのもOK**です。1回で完璧に覚えようとせずに、忘れたら見本のページに戻って大丈夫ですよ。



◆見本をしっかりと覚えさせる

2つ目は、**見本をしっかりと覚えさせること**です。

発達障害の子どもは**じっと見るのが苦手**です。

また、スマホの操作を子どもがやりたがる場合、**きちんと覚えていないのにすぐにスクロールしてしまう**こともあるかもしれません。

と言っても「ちゃんとよく見なさい！」と叱ってしまっは、トレーニングが台無しです。

そこでパッとしか見本を見ない子どもには、「この写真は何かな?」「ここに何て書いてあるかな?」と問いかけることで、**問題を声に出させましょう**。

「赤い花」「黄色いバス」などと口に出すことで**見本の色や形に注目して観察したり、覚えることにつながりますよ**。

お母さんが代わりに読んであげても大丈夫です。

また、「正方形」がわかりにくい場合は「小さい四角」「真四角」など子どもがわかりやすい言い方に変えてあげてくださいね。



◆できたところにだけ注目する

そして3つ目は、**できたところにだけ注目して
しっかり褒めること**です。

完璧にできなくても、1つでも見つけられたら「**もう
見つけたんだね!**」「**よくできたね!**」としっかり
褒めてあげてくださいね。

また、「がんばったね!カード」にシールを貼ったり
色を塗るのもおすすめですよ。

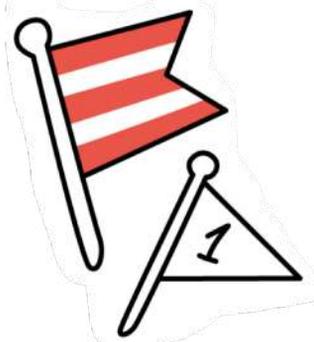
◆板書力を格段に伸ばす裏ワザ

4つ目は、**パソコンとスマホのダブル使い**で板書力を
伸ばすことです。

最初にお伝えしたように、板書の苦手には**視線の移動
がうまくできないことが大きく関係**しています。

ですからパソコンとスマホのダブル使いで、**視線の
移動のトレーニング**を行うと効果的なんです。

以下の方法が使えるのは、問題（見本）のページと
課題（全体像）のページが分かれている**中級編と
上級編**です。



やり方は

- ①パソコンとスマホのそれぞれに教材をダウンロード
- ②お母さんがスマホの画面で、**問題（見本）のページ**を見せる
- ③子どもがパソコンの画面で、**課題（全体像）のページ**から指定されたものを探して指差しする

という方法です。

詳しい取り組み方はこちらの動画で紹介しています。

『【教材解説動画】板書が苦手な発達障害の子におすすめ！「探し物ドリル」の効果的な使い方とは？』

<https://desc-lab.com/45754/>

こんな風に取り組むと、実際の板書の場面で必要とされる
「視線の移動をスムーズに行う力」を格段に伸ばすことができるんですよ。



いかがでしたか？

板書が苦手な発達障害の子どもにおすすめのドリルの取り組み方は

- ・ **お母さんの対応でハードルを下げる**
- ・ **見本をしっかり覚えさせる**
- ・ **できたところにだけ注目する**
- ・ **スマホとパソコンのダブル使いでトレーニングを行う
(中級・上級)**

ことの4つです。

コツを覚えて、親子で楽しみながら取り組んで
くださいね！



教材のねらい

発達障害の子どもの「板書が苦手」を解消するために

- ①じっくり見る力
- ②大事な情報を覚える力
- ③注意力

を高めます

取り組む前に

トレーニングの効果を発揮するために大事なことは「子どもが楽しく取り組むこと」です。

ですからまずは、親子のコミュニケーションがスムーズになっていることが必須です。



使い方①

- ・プリントするのではなく、パソコンやタブレット、スマホで取り組んでください
- ・教材の記載順にこだわらず、**お子さんが興味を持った問題**から取り組んでOKです
- ・問題（見本）のページと課題（全体像）のページが分かれています。

見本を覚えて、**指定されたもの**を見つけて指差ししてもらいましょう

「お菓子の問題だけやる」
「ブロックの問題だけやる」

など、**お子さんの好きなものだけやる**のもOKですよ！



使い方②

- ・板書の苦手には「**視線の移動のトレーニング**」が効果的です。

スマホとパソコンにそれぞれ教材をダウンロードして、

- ①お母さんがスマホの画面で
問題（見本）のページを見せる
- ②子どもは目の前のパソコン画面で、
課題（全体像）のページから指定されたものを探す

という取り組み方もおすすめです。



- ・アレンジ編では、お母さんが問題を出す形式になっています。

問題の中から探すものを選び、
「次のページでこれを見つけてね」と指差ししてください。



使い方のポイント

- ・ 指定されたものを見つけたら、指差ししてもらいます
- ・ 「これ、できたらすごいやつなんだけどね...」
「車の問題1つだけやってみる？」

などの声かけをすると取り組むハードルが下がります

- ・ じっと見本を見るのが苦手な子には

「これは何かな？」

などと質問して、言語化させると覚えやすくなります



子どものやる気を
引き出してあげましょう！

アドバイス

- ・「色は合ってるね！」 「もう1つ見つけられたんだ！」

など子どもができているところに注目して褒めてあげましょう

- ・「がんばったね！カード」にシールを貼ったり色を塗るのもおすすめです

完璧にできなくてOK！



子どもに自信をつけることが大切です！

困ったときは

こちら！

【教材付】板書が苦手な発達障害の子に
おすすめの「探し物ドリル」ができました！

<https://desc-lab.com/45752/>

【教材解説動画】板書が苦手な発達障害の子におすすめ！
「探し物ドリル」の効果的な使い方とは？

<https://desc-lab.com/45754/>

パステル総研の記事や動画を
チェックしながら進めましょう

大事なことは
楽しく取り組むことです！

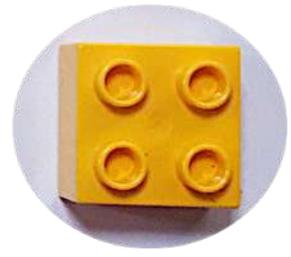
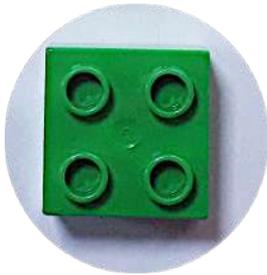


もんだい

【問題】

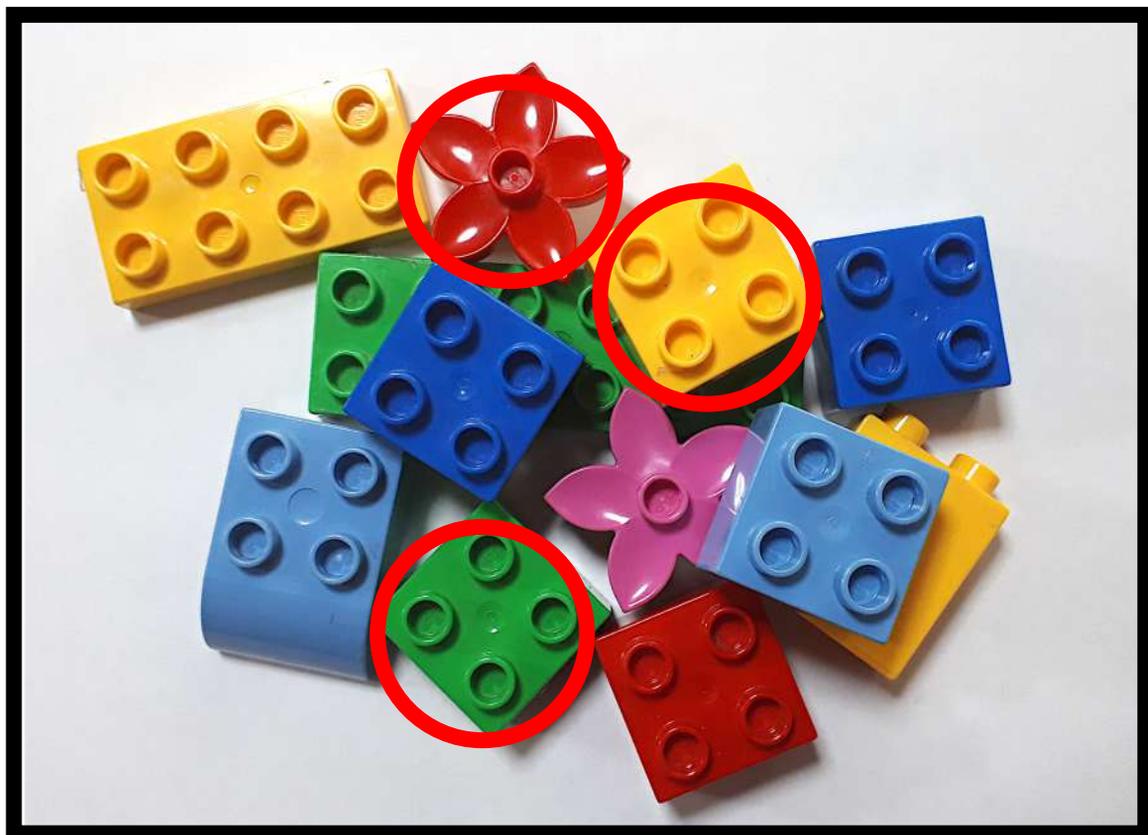
このブロックをよくみておぼえてね。

おぼえたらつぎのページにいこう！



こた

【答え】



もんだい

【問題】

ぶんぼうぐ

この文房具をよくみておぼえてね。

おぼえたらつぎのページにいこう！

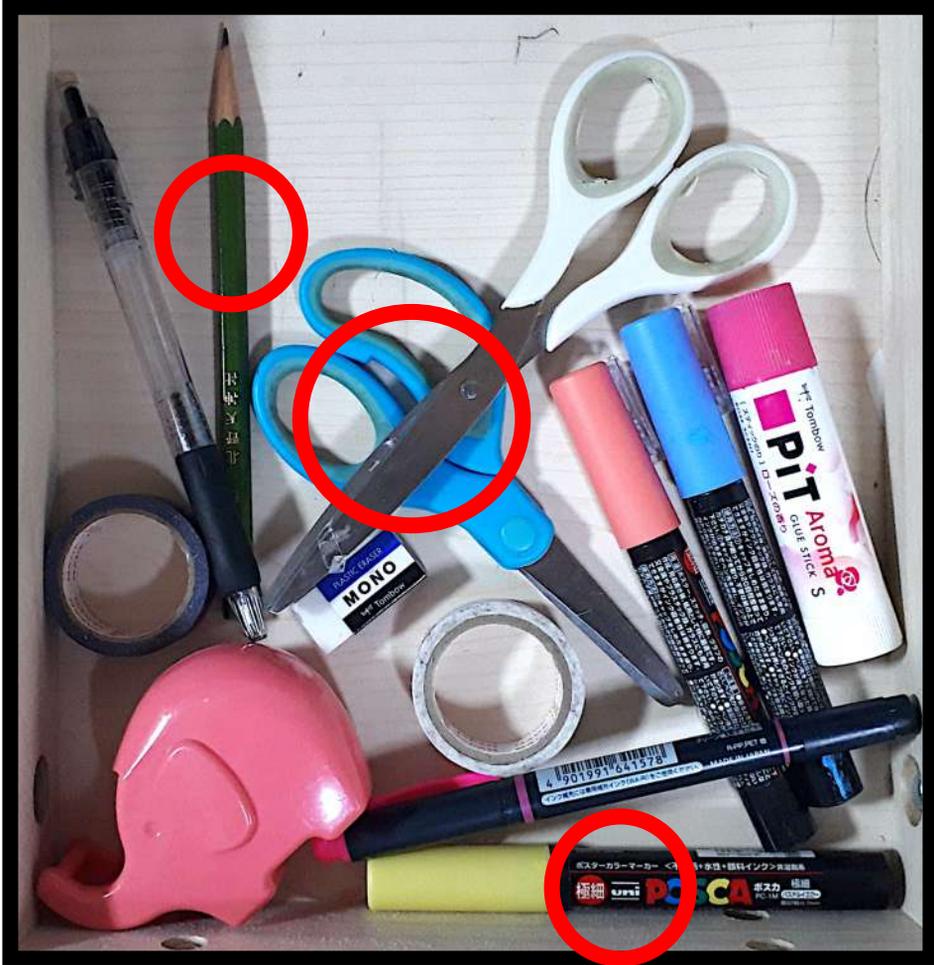


まえのページにあったものはどれかな？



まえのページにあったものはどれかな？

こた
【答え】



もんだい

【問題】

このせんとくものをよくみておぼえてね。

おぼえたらつぎのページにいこう！



まえのページにあったものはどれかな？



まえのページにあったものはどれかな？

こた

【答え】



もんだい

【問題】

このたべものをよくみておぼえてね。

おぼえたらつぎのページにいこう！



まえのページにあったものはどれかな？



まえのページにあったものはどれかな？

こた

【答え】



もんだい

【問題】

このくるまをよくみておぼえてね。

おぼえたらつぎのページにいこう！



まえのページにあったものはどれかな？



まえのページにあったものはどれかな？

こた

【答え】



もんだい

【問題】

つぎのページで

はな

ピンクの花のブロックと

せいほうけい

みどりの正方形のブロックをみつけてね

まえのページにかかれていたものはどれかな？



まえのページにかかれていたものはどれかな？

こた
【答え】



もんだい

【問題】

つぎのページで

きいろのペンと

しろ

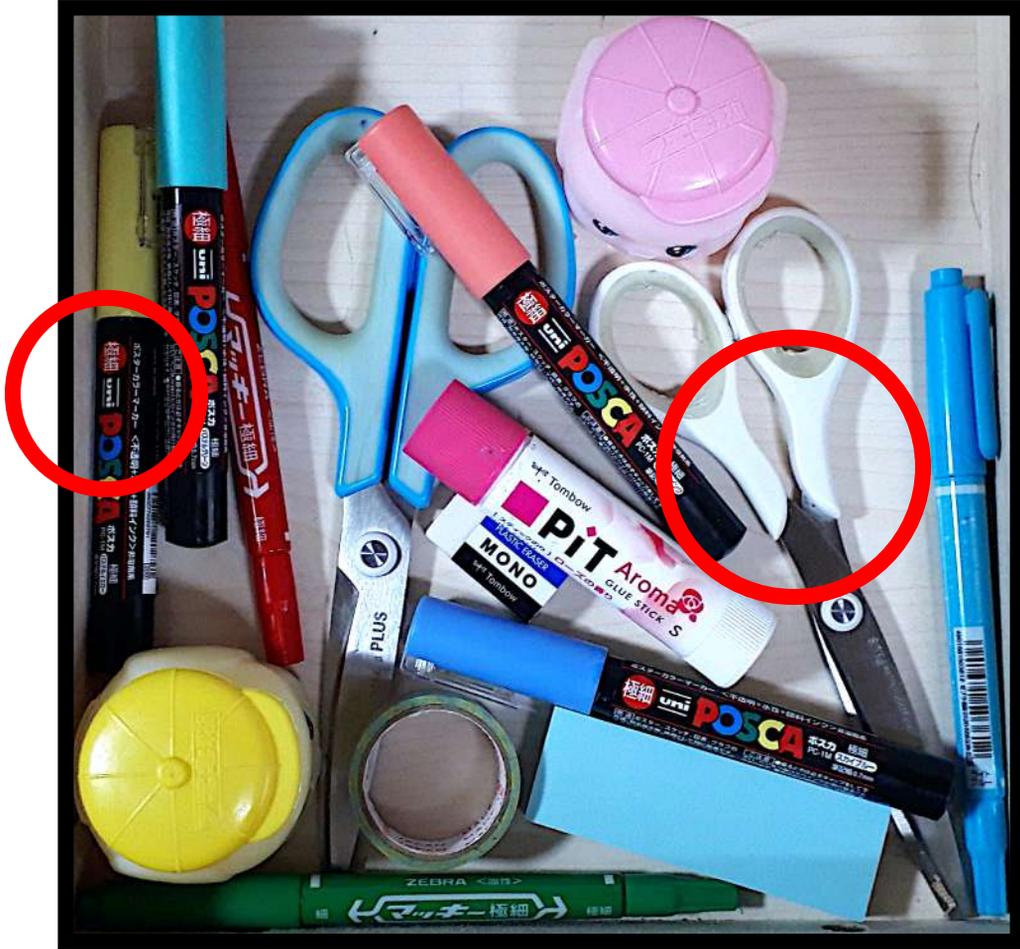
白のハサミをみつけてね

まえのページにかかれていたものはどれかな？



まえのページにかかれていたものはどれかな？

こた
【答え】



もんだい

【問題】

つぎのページで

くろ ふく

黒い服と

みどりのズボンをもつけてね

まえのページにかかれていたものはどれかな？



まえのページにかかれていたものはどれかな？

こた
【答え】



もんだい

【問題】

つぎのページで

さんしょく

三色だんごと

いちごをみつけてね

こた
【答え】



もんだい

【問題】

つぎのページで

あおいくるまと

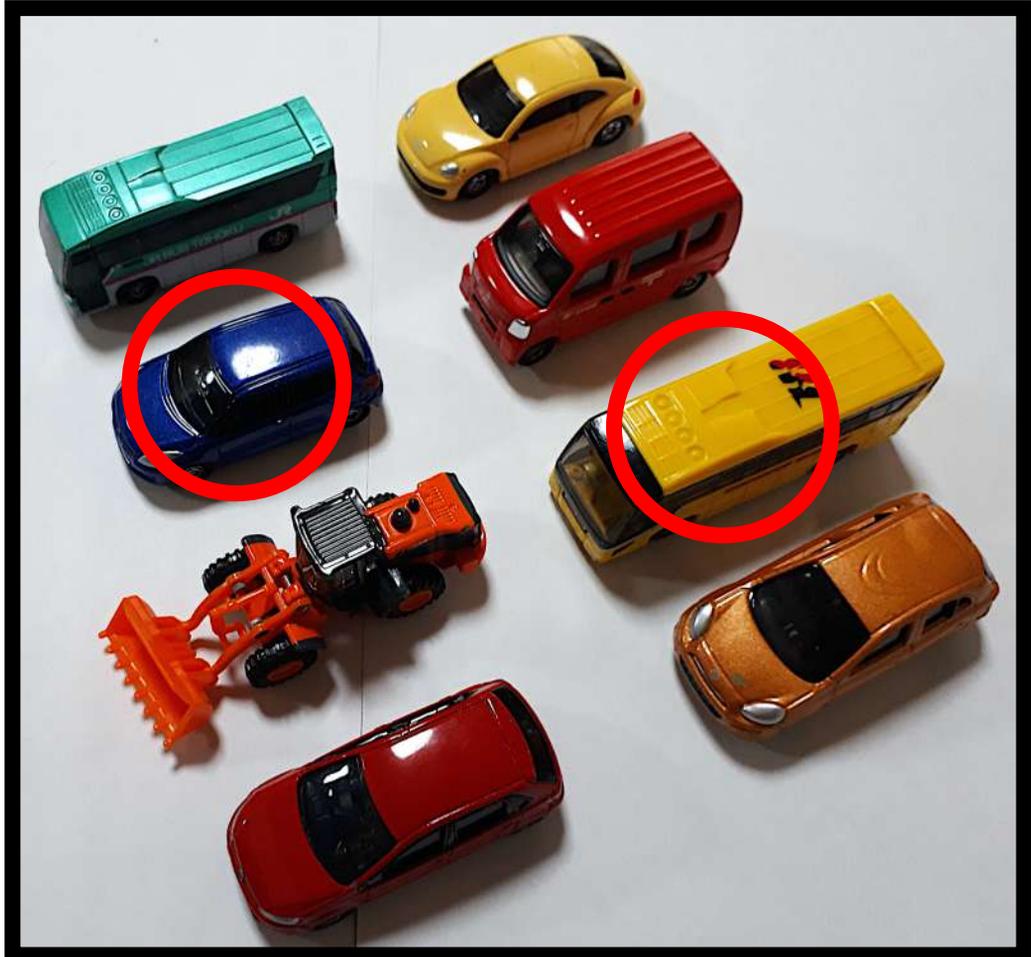
きいろのバスをみつけてね

まえのページにかかれていたものはどれかな？



まえのページにかかれていたものはどれかな？

こた
【答え】



アレンジ編

お母さんが問題の中から探すものを選び、
「次のページでこれを見つけてね」と指差しします。

①お母さんが**探すものを指定**



②子どもが次のページで、**指定されたものを探し、
指差しをする**



③問題ページに戻って、お母さんが**違うものを指定**

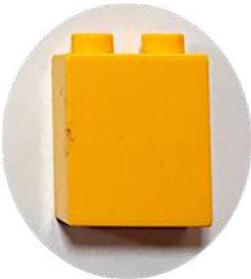
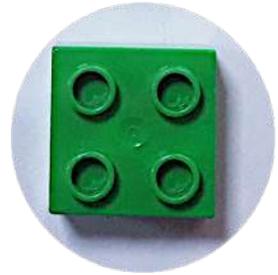
と繰り返してください。



もんだい

【問題】

※お母さんが選んで指差ししましょう



どこにあるかな？



どこにあるかな？

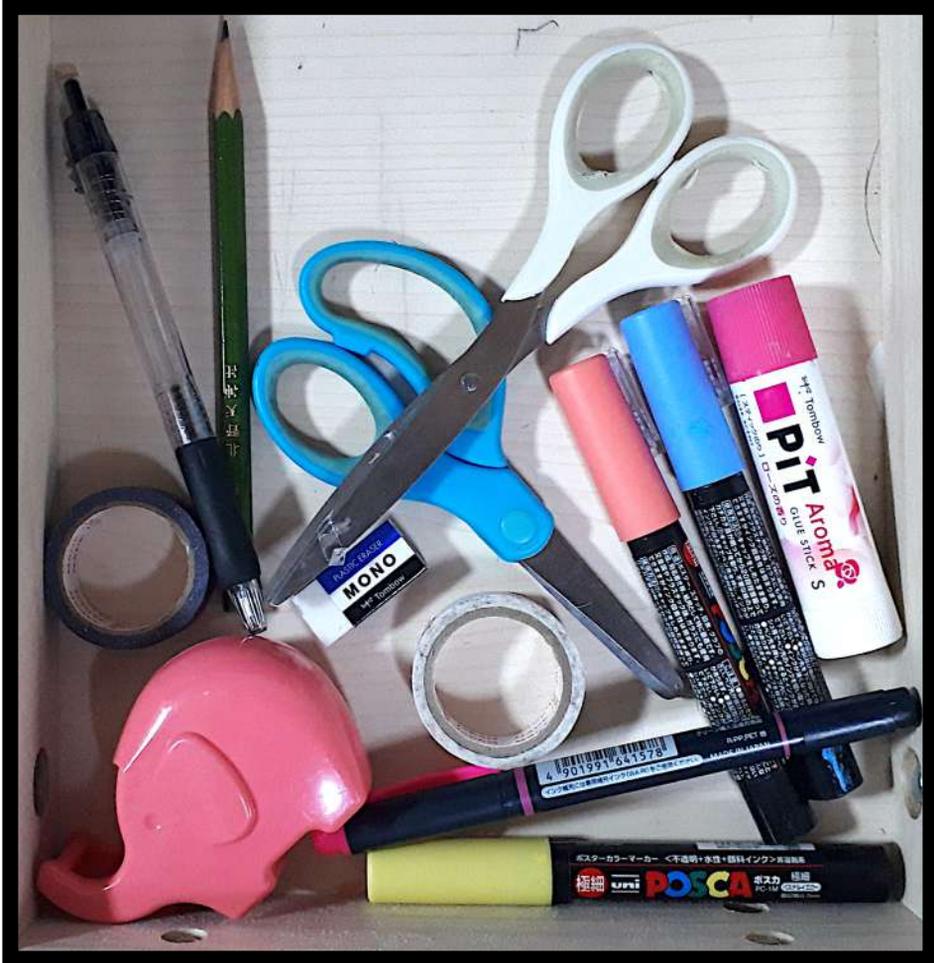
もんだい

【問題】

※お母さんが選んで指差ししましょう



どこにあるかな？



どこにあるかな？

もんだい

【問題】

※お母さんが選んで指差ししましょう



どこにあるかな？



どこにあるかな？

もんだい

【問題】

※お母さんが選んで指差ししましょう



どこにあるかな？



どこにあるかな？

もんだい

【問題】

※お母さんが選んで指差ししましょう



どこにあるかな？



どこにあるかな？

おわりに

- ・プリントはあくまで練習です。

日常生活の中で同じように、「探し物ゲーム」を試してみてください。

- ・毎日5分でも、**コツコツ取り組む**ことが大切です。

ただし、無理強いはNG！

時には**お休み**したり、「探し物ゲーム」をしたりと**子どもが楽しめるペース**で取り組んでくださいね。

「指定されたものを正確に、素早く探せるようになる」ことが目標です。



他の教材の紹介

- ・ 注意力を伸ばすためには、**継続してトレーニングを行う**ことが大事です。

パステル総研では他にも、**注意力をUPさせる教材**を配信しています。

合わせてチェックしてくださいね。

『【教材付】1日5分でOK！発達障害の不注意を改善するオリジナル教材を紹介します！』 <https://desc-lab.com/18954/>

『【教材付】注意力UPの最新トレーニング！発達障害のトラブルを解消する教材ができました！』 <https://desc-lab.com/29148/>

